



# JCSS

JCSS 0283

総数 5頁の1頁  
校正証明書番号 CALK19-031

## 校正証明書

依頼者名	一般財団法人 建材試験センター 工事材料試験所 浦和試験室
依頼者住所	埼玉県さいたま市桜区中島2丁目12番8号
計量器の設置場所	同上
計量器の名称	一軸試験機
型式	油圧式堅型万能試験機 5段切替、型名 MRA-200B-F2
能力	圧縮・引張:2000 kN
製造番号	10212
製造日	2014年10月
製造者	株式会社 前川試験機製作所
力指示計	デジタル式
校正レンジ	100 kN、200 kN、500 kN、1000 kN、2000 kN
校正方法	JIS B 7721:2018 による
実施条件	別紙1のとおり
トランスファ標準器	別紙2のとおり
校正結果	別紙3及び別紙4のとおり
受付年月日	2019年5月28日
校正年月日	2019年6月7日

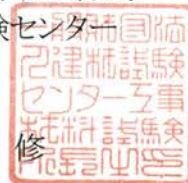
校正結果は、以上のとおりであることを証明します。

2019年6月12日



埼玉県さいたま市桜区中島2丁目12番8号  
一般財団法人 建材試験センター  
工事材料試験所

所長 川上 修



この証明書は、計量法144条(第一項)に基づくものであり、特定標準器(国家標準)にトレーサブルな標準器により校正した結果を示すものです。認定シンボルは、校正した結果の国家標準へのトレーサビリティの証拠です。

当試験所の書面による承諾がない限り、この証明書の一部分のみを複製して用いることは禁じられています。

当試験所は、JIS Q 17025:2005 (ISO/IEC 17025:2005)に適合しており、ILAC(国際試験所認定協力機構)及び APLAC(アジア太平洋試験所認定協力機構)の MRA(相互承認)に加盟している IAJapan に校正機関として認定されています。この校正結果は ILAC/APLAC の MRA を通じて、国際的に受け入れ可能です。

別紙 1

## 校正の実施条件

- 1) 一軸試験機の校正は、別紙2に記載した圧縮用力計をトランスファ標準器として用い、一軸試験機に内蔵された力測定装置に圧縮力を作用させて実施した。
- 2) 負荷棒等の力の伝達系に引張力を作用させる校正は実施していない。
- 3) 予備負荷の回数は、3回である。
- 4) 測定は、力計の方向を変更せずに実施した。
- 5) 校正を行う最小レンジでは、ピストン位置を有効ストロークの20 %、40 %、60 %に変更して実施した。
- 6) 予備負荷及び各負荷サイクル間の待機時間は、1分以上である。
- 7) 力計の指示値の測定は、負荷が試験力に達すると同時に行った。
- 8) 附属品は無かった。
- 9) 一軸試験機及び校正に必要な機器等は、校正を始める1時間以上前からすべての校正が終了するまで連続した通電が行われた。
- 10) 校正実施場所の温度は、22.2 °C～24.7 °Cであり、各レンジを校正中の温度変動は±2 °C以内であった。また、湿度は62 %～77 %、気圧は1005 hPa～1009 hPaであった。
- 11) 一般検査において異常は認められなかった。
- 12) 校正担当者  
校正監督者: 在原 将之  
校正責任者: 大角 昇

(備考)

- 1) 一軸試験機の校正における拡張不確かさの決定には、JCSS 技術ガイド(JCG204S21 不確かさの見積もりに関するガイド 力／一軸試験機)を適用している。
- 2) 拡張不確かさは信頼の水準約 95 %に相当し、包含係数 $k=2$ を用いている。

別紙 2

## トランスファ標準器

環状ばね型力計	管理番号:C101D	製造番号:6610	
型式及び定格容量	型名:LD-20D	圧縮 200 kN	
指示装置	デジタル指示計 No.02730		
校正証明書番号	51-87043		
校正温度、湿度及び気圧	23.3 °C ± 1 °C	44 %	1016 hPa
校正器物の温度	23.3 °C ± 1 °C		
最大拡張不確かさ(k=2)	(力の範囲) 20 kN ~ 200 kN	0.18 %	(等級) 1 級
及び等級	(力の範囲) 60 kN ~ 200 kN	0.085 %	(等級) 0.5 級
内挿校正式の有無	有	校正年月日	2019 年 2 月 4 日

ロードセル型力計	管理番号:C102A	製造番号:AHJ08010	
型式及び定格容量	型名:CLJ-2MNB	圧縮 2000 kN	
指示装置	デジタル指示計 No.0010004		
校正証明書番号	JF-2765		
校正温度、湿度及び気圧	22 °C ± 1 °C	23 %	999 hPa
校正器物の温度	22 °C ± 1 °C		
最大拡張不確かさ(k=2)	(力の範囲) 100 kN ~ 2000 kN	0.042 %	(等級) 0.5 級
及び等級			
内挿校正式の有無	有	校正年月日	2019 年 1 月 25 日

別紙3

## 校正結果

試験力の方向:圧縮力

### 1. レンジ容量:100 kN 等級(参考):1 級

力 (kN)	相対指 示誤差 (%)	拡張不 確かさ (%)	相対誤差(参考) (%)				附属品 の検証 (%)	トランスファ 標準器
			繰返性	零誤差	分解能	往復誤差		
			$q$	$U$	$b$	$f_0$		
20	0.01	0.33	0.27	0.00	0.20	-	-	C101D
40	0.00	0.33	0.13	0.00	0.10	-	-	C101D
60	0.13	0.33	0.38	0.00	0.07	-	-	C101D
80	0.17	0.40	0.58	0.00	0.05	-	-	C101D
100	0.23	0.45	0.60	0.00	0.04	-	-	C101D

### 2. レンジ容量:200 kN 等級(参考):1 級

力 (kN)	相対指 示誤差 (%)	拡張不 確かさ (%)	相対誤差(参考) (%)				附属品 の検証 (%)	トランスファ 標準器
			繰返性	零誤差	分解能	往復誤差		
			$q$	$U$	$b$	$f_0$		
40	-0.06	0.26	0.18	0.00	0.25	-	-	C101D
80	0.13	0.22	0.02	0.00	0.13	-	-	C101D
120	0.12	0.22	0.13	0.00	0.08	-	-	C101D
160	0.14	0.22	0.11	0.00	0.06	-	-	C101D
200	0.18	0.22	0.00	0.00	0.05	-	-	C101D

### 4. レンジ容量:500 kN 等級(参考):0.5 級

力 (kN)	相対指 示誤差 (%)	拡張不 確かさ (%)	相対誤差(参考) (%)				附属品 の検証 (%)	トランスファ 標準器
			繰返性	零誤差	分解能	往復誤差		
			$q$	$U$	$b$	$f_0$		
100	-0.40	0.22	0.12	0.00	0.20	-	-	C102A
200	0.03	0.27	0.41	0.00	0.10	-	-	C102A
300	0.23	0.22	0.11	0.00	0.07	-	-	C102A
400	0.21	0.22	0.08	0.00	0.05	-	-	C102A
500	0.12	0.22	0.07	0.00	0.04	-	-	C102A

別紙4

## 校正結果

試験力の方向:圧縮力

### 4. レンジ容量:1000 kN 等級(参考):0.5 級

力 (kN)	相対指 示誤差 (%)	拡張不 確かさ (%)	相対誤差(参考) (%)				附属品 の検証 (%)	トランスファ 標準器
			繰返性	零誤差	分解能	往復誤差		
			$q$	$U$	$b$	$f_0$		
200	-0.41	0.22	0.16	0.00	0.20	-	-	C102A
400	0.02	0.22	0.11	0.00	0.10	-	-	C102A
600	0.06	0.22	0.07	0.00	0.07	-	-	C102A
800	0.02	0.22	0.07	0.00	0.05	-	-	C102A
1000	-0.06	0.22	0.02	0.00	0.04	-	-	C102A

### 5. レンジ容量:2000 kN 等級(参考):0.5 級

力 (kN)	相対指 示誤差 (%)	拡張不 確かさ (%)	相対誤差(参考) (%)				附属品 の検証 (%)	トランスファ 標準器
			繰返性	零誤差	分解能	往復誤差		
			$q$	$U$	$b$	$f_0$		
400	-0.40	0.28	0.40	0.00	0.25	-	-	C102A
800	-0.13	0.22	0.05	0.00	0.13	-	-	C102A
1200	-0.07	0.22	0.08	0.00	0.08	-	-	C102A
1600	-0.04	0.22	0.04	0.00	0.06	-	-	C102A
2000	-0.10	0.22	0.03	0.00	0.05	-	-	C102A

以上